

北辰会誕生まで

理事長 小田島 肅 夫

平成2年11月3日に北辰会設立総会が開かれて以来、北辰会は順調な歩みを続けておりますが、その設立の経緯について少し述べてみたいと思います。

平成2年のはじめに村上理事長から本学教職員、卒業生、大学院学生、在校生などを中心に、さらには留学生を含めた人々の親睦を図って母校の発展に寄与することを目的とした会の設立構想についてお話がありました。直ちに金沢医科大学北辰会（仮称）組織委員会を作り会の設立準備に入りました。平成2年5月の第1回目の卒業生に対するアンケート実施に始まり、地区別懇親会での北辰会（仮称）の設立主旨の説明、発起人の委嘱、会則草案の審議、会の名称募集など、11月3日の設立総会、親睦会に至るまで、組織委員会の皆さんや多くの卒業生の方々の努力に負うことが多く、この努力なしには北辰会が存在しなかったと言っても過言ではありません。この間、発起人の委嘱、理事・評議員の選出が行われました。その間に一部に不手際があったことをお詫びいたします。いづれにしても僅か6か月間に会員総数約3,000人の北辰会を結成出来たことはこの大学の持つ潜在エネルギーの確かさを示すもので、本学の将来の発展が約束されている様に思います。金沢医科大学北辰会の名称は総会での皆さんの総意によって決定されました。この北辰会は旧制第四高等学校の卒業生の間に定着した名称であり、重複するのではないかとの意見もありましたが「金沢医科大学北辰会」ということで了解を得ることが出来ました。北国の夜空に

燦然と輝く不動の北極星の名に恥じない会に成長することを期待しております。

さて、少し大袈裟な言い方も知れませんが、21世紀に向かって新設私立医科大学の運命をかけた深刻な問題が次々とクローズアップされております。とくに18歳人口の減少や医学部離れの傾向による志願者の激減が予想され、もはや医学部も「聖域」ではあり得ないと言われております。村上理事長がかつて米国の教育経済学者ポウエン博士の「私立大学のサバイバルの条件」を引用して、本学の問題点についても言及されたことを記憶されている方も多いと思います。このサバイバルの条件の一つに「緊急事態に立ち上がる校友、支援者達の情熱的意志」という項があります。北辰会が揺るぎない金沢医科大学の支持母体として成長することが本学の発展のために不可欠であり、将来に向かって、会員の皆さんのさらなる御協力を期待する次第です。

□ 金沢医科大学北辰同窓会の新しい出発にあたって

金沢医科大学同窓会の軌跡と未来

旧金沢医科大学同窓会元会長 堤 幹宏
(昭和55年卒業 本学消化器内科助教授)

皆さん大変ご無沙汰しております。内灘祭も終わって、いよいよ秋が深まってまいりましたが、同窓生の諸兄諸姉には益々ご健勝のことと拝察いたします。

この度、旧金沢医科大学同窓会と金沢医科大学北辰会が一つに纏まって新しく「金沢医科大学北辰同窓会」として出発することになった機会に、「金沢医科大学同窓会」と「金沢医科大学北辰会」との関係、その過去・現在・そして未来について、報告いたしたいと思います。本学卒業生の皆様のご理解をいただく一助となれば幸いです。

昭和53年に第1期生が卒業して以来、今年で早20年の歳月が経ち、本学の卒業生も2,000名を超えるようになりました。特に、第1期生をはじめ本学草創期の同窓諸兄諸姉は、すでに不惑を迎えて、まさに各分野の中堅あるいはリーダーとして活躍されています。そして母校・金沢医科大学をあらためて見つめて、「同窓会とは」と問われる年齢になってきたことも事実であります。

ここでまず「金沢医科大学同窓会」が設立された経緯とその後の経過を簡単に述べたいと思います。

1978年3月：第1期生が卒業。

1980年11月：立石圭太氏（北海道にて開業）と私（ともに3期生）が中心になり、金沢医科

大学同窓会準備委員会を発足させました。主旨は「同窓生名簿の作成」でした。準備委員会では卒業生全員に「同窓会設立の是非」のアンケートを行いました。大多数の同窓生から賛同が得られましたので、設立に向けて準備を始めました。

1981年11月：「金沢医科大学同窓会」が発足し、初代会長に第1期生の市川朝也氏（当時本学耳鼻咽喉科に所属）を選出。

1982年4月：市川氏が郷里に帰ることになり会長を辞任。第1期生の須藤明氏（当時本学麻酔科に所属）を第2代会長に選出。

1988年11月：須藤氏が米国留学のため会長辞任。第3代会長に第2期生の松能久雄氏（当時本学病理学Ⅱに所属）を選出。

1991年4月：松能氏辞任。第4代会長に私（堤）が選出されました。

そして1995年2月22日の臨時総会で第5代会長に第1期生の坂本 滋氏（本学胸部心臓血管外科助教授）が選出され現在に至りました。

この間、「同窓会」の当初の目的であった同窓会名簿は、遅れながらも7版（1991年12月発行）まで会員に届けてきました。名簿の発行は、卒業後の何年間かは住所の変更が多くまた間違いも起こり大変な仕事で、多くの方々にご迷惑をお掛けしてきたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。名簿の作成は、多い時は数名、少ない時には2名で行い、全国および海外の会員に送付してきたのが実状でした。会員が200～300名の時はまだしも、2,000名を超えるような場合はこのような形でも対応できるものではありません。また、阪神大震災のような事態が生じた場合も、全

く対応できなかったことも事実でありました。さらに同窓会活動というものは名簿の発行だけではなく、継続的に各地の同窓生が連絡し合うのを助け、あるいは支部活動を通じてお互いの向上に寄与するとともに、母校を支え母校の発展に貢献することが大切であると考えて、今後同窓会がどうあるべきかを議論すべく、1995年2月22日の臨時総会の開催となりました。

この1995年の金沢医科大学同窓会臨時総会での結論は、①堤 幹宏が同窓会会長を辞任する。②金沢医科大学同窓会は金沢医科大学北辰会を全面的に支援する。③同窓会は北辰会の一組織として活動する。④新（第5代）同窓会会長には北辰会の副会長でもある坂本滋氏が、副会長には第1期生の林（旧姓松田）朋子氏（北海道）と第5期生の伊藤 透氏（本学消化器内科講師）が就任する。⑤原則として同窓会総会は北辰会総会の前日に行う。というものでありました。

一方、金沢医科大学がやがて創立後20年を迎えようとする1990年11月、村上瑛二現理事長をはじめとする金沢医科大学現職教員、卒業生、在学生、退職教員を含む有志が発起人となって、より一般的、普遍的な形の同窓会、すなわち同じ大学で学び、あるいは教え合った全ての仲間が参加でき、そして母校を支援し、ひいては社会に貢献していけるような会として「金沢医科大学北辰会」が発足し、順調な発展を続けてきたことは多くの方がご存知の通りであります。名簿もより完備したものが作成されて、皆さんの所に届いているはずですよ。

上記の1995年の金沢医科大学同窓会臨時総会から2年をかけて、「同窓会」と「北辰会」が1本となるのにあたっての問題解決に努力が

注がれてきました。そして去る1997年5月25日の金沢医科大学北辰会総会において両会はめでたく1本となり、「金沢医科大学北辰同窓会」の名のもとに運営されることになったわけです。懸案の一つであった旧同窓会費の既納者についての取扱いも本誌8頁に記載した通りに解決しました。

内灘の地で共に学び、教え合った人々の輪が、全国各地に広がっており、北辰同窓会を構成する金沢医科大学卒業生、現職教員、在学生、退職教員の数は4,000名を優に超すようになっております。先般も西日本私立医科大学同窓会連絡会をわれわれ北辰同窓会のお世話で金沢で開催し、各同窓会の持つ種々の事情が話し合われましたが、われわれも力を合わせて大学の発展につくすべきであることが痛切に感じられた次第です。

金沢医科大学「北辰同窓会」 の発足にあたって

金沢医科大学北辰同窓会副会長 坂本 滋
(旧金沢医科大学同窓会会長)
(昭和53年卒業 胸部心臓血管外科助教授)

私は、1972年金沢医科大学第1回生として入学以来ずっと本学にお世話になっています。私以外にも同じ1回生で、循環器内科の津川博一先生、小児外科の小沼邦男先生が現在も本学で活躍されていますが、時々大学の廊下ですれ違って簡単な挨拶を交わす程度で通り過ぎることが多くゆっくり話し合うという暇がありません。以前から言われてきている金沢医科大学同窓会（昭和56年発足）のこと、とくに今後どのように運営されるべきかについて、話し合いをしなければいけないと思っていましたが、全国に散らばって活躍されてい

る卒業生の皆さんはもとより、我々も非常に多忙で、話し合いの機会がもてないのが現状でありました。私は平成7年2月22日の金沢医科大学同窓会臨時総会で本学消化器内科の堤幹宏先生から同窓会会長を引き継ぎましたが、実際のところ有名無実の会で、同窓会本部というものもどこにも見当たらなかったのが実状でした。会長として十分な活動ができなかったことお詫び申し上げます。

実は、昭和56年に金沢医科大学同窓会が発足した当時は、同窓会を作らねばならないという気持ちから当時の若い卒業生の手づくりで発足したものでありました。また、平成2年には金沢医科大学の現職教員、卒業生、退職教員の有志の方々によって、金沢医科大学で学び合った人々誰もが参加する金沢医科大学北辰会が発足することになりました。

どこの大学にも同窓会というものがあります。それも教員、在学生を含めた一体感のある会としてお互いの親睦とともに、母校の発展に寄与できるものとして発展することが理想と考えます。

旧同窓会会長がこのようなことを言うことには抵抗を感じられる方もあるかと思いますが、ここで心機一転して、金沢医科大学同窓会は新しく金沢医科大学北辰会と1本化して金沢医科大学北辰同窓会として発足することになったことは長い目で見て大変大切な決断をしたことになると思っております。今後とも金沢医科大学の発展に貢献できる活動を継続したいと思いますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

